

地産地消に取り組む

大工・工務店

有限会社若木建設

○感謝祭 ○高屋様邸

株式会社大山建工

○Y様邸

有限会社キーポイントホーム

○太田取・明里様邸 ○戸沼廉・麻珠様邸

○十川和広・修子様邸 ○K様邸

企業組合県木住

○渡邊匠哉・栄美子様邸 ○松尾浩昭様邸

○相馬恭佐・ちさと様邸

チーム県産材

○合同完成見学会

有限会社大坊建設

○O様邸

有限会社 岩木建設



木に触れると いいことあるかも？

みんなで楽しめる
体験型イベント

自然と暮らし in いわきの家

まるで縁日さながらの人出で賑わっていた。新型コロナウイルスの影響で開催を自粛していた(有)岩木建設の感謝祭『自然と暮らし in いわきの家』が、3年ぶりに再開された。「いらっしやいませえ」と受付で岩木勝志社長と専務が笑顔で出迎え、「楽しんでくださいね」と声をかける。立ち並んでいるテントは、大工や鋳金や左官や建具など職種ごとのブースになっていて、廃材利用をテーマに、吸湿性のあるタイルを利用した「靴の消臭剤」や、カンナ屑を生かした「削り花」づくりなどが体験できるようになっている。感謝祭を通じて、今話題の「循環型社会をめざすSDGs」の必要性をも発信しているのだ。

カンナ屑で作る花

岩木建設から「感謝祭」の内状が郵送されてきた。「この度3年ぶりに……」の挨拶文に岩木社長の笑顔が添えられていた。

「感謝祭」は、住宅展示場『いわきの家』が完成した翌年の2011年から恒例行事として毎年行われてきた。展示場の見学がきっかけで契約になった例が多く、感謝を込めたイベントとしてスタートしたもので、タイトルも「展示場感謝祭」であった。

「職人との触れ合い」を目的に、大工だけでなく、住宅に関わる職人たちも参加して一緒に物づくりが楽しめるスタイルになったのが3年前。めったに体験できない職人との交流が好評を得た。

創業68年 感謝祭



「建具屋さん」のコーナーでは、青森ヒバのフォトスタンドづくりが体験できる



カナヅチで打ち砕いたタイルを使ってつくる「靴の消臭剤」づくりのブース



今回、新しく登場したカンナ屑で花をつくる「削り花」のブースは女性に大人気



バーベキューに使用する台を廃材でつくる参加者の女性



お嬢ちゃんのコギリ体験を大工さんがサポート

今回、新しく登場したのは「カンナ屑で花づくります」の「削り花」のブース。テントの中に集まっていた大人も子供も皆、女性だった。

握ったこぶしから、薄い布を引き出して「花」の形にするマジックみたいな手つきだが、その、布に見えたのが、カンナ屑なのだ。角材にカンナを載せて引くと薄い皮になって出てくるあのカンナ屑。それで「花」を作るのだ。カンナ屑は、熟練者が削ればミクロ(千分の1mm)の薄さになり、透けて見え

る美しさは木とは思えない。

女性たちに向かつて花づくりを指導している男性——マスクをしているので気が付かなかったが、岩木克仁かつひとさんだった。ゆくゆく岩木建設の3代目を継ぐ長男で、北海道の武部建設(本社・岩見沢市、武部豊樹社長)に勤めている。応援に駆け付けたというよりも、岩木専務に「削り花」づくりを指導してほしいと依頼されたようだ。

岩木専務が話す。

「この間(10月中旬)、岩見沢市で、第38回全国削ろう会北海



左官やさんからコテの使い方のアドバイスを受けて、壁塗りに挑戦する男の子

道いわみざわ大会が開かれたんです。大会長を務めたのが武部建設の武部社長でした。削り花のことは以前から削ろう会通过じて知っていました。大工の熟練技が削り出す、いわば「木の布」みたいな薄皮だからこそ花になるのですね。前々から感謝祭で参加者の方々に削り花のことも、作り方も披露したいと思っていました。私は手が回りませんから、息子に伝

援を頼みました」

カナヅチの音が響いているブースでは「靴の消臭剤」づくりが行われていた。女の子がテーブルの上のタイルをカナヅチで打ち砕いている。細かくした破片を小さな袋に入れ、それを靴箱に置くと消臭効果があるのだそうだ。「水道やさん」のネームプレートを付けた係員の説明によると、「このタイルは、湿気や臭いを吸う効果のあ

る珪藻土を原料としたもので、洗面脱衣室などに貼る内装用壁材」とのこと。現場で余ったタイルを消臭剤として利用しようという、削り花と同様にこれもSDGsに向けた取組みなのだった。

「左官塗り体験」のブースでは、小学生らしい男の子が板の前にしゃがんで壁塗りに挑戦していた。そばから本職の「左官やさん」がコテの使い方をアドバイスする。子供は飲み込みがはやく、すぐに習得する。背後から眺めている男の子の父親らしい男性に声をかけてみた。

「ええ、初めて参加しました」「ユーザーさんですか?」「3年前に岩木建設で建てました」。その年からコロナで開催中止になったのだ。「参加してみたいかどうか」「さっき、タイルを砕く消臭剤づくりもやったんですけど、ゲームじゃなくて、塗り壁とかが体験できるって、どこへ行ってもないじゃないですか。それに相手が機械じゃなく、職

人というのがいいですよね。職人さんってまじめで、やさしくて、あつたかいですよ。それは子供たちにも伝わるんじゃないでしょうか」

廃材を生活に活用

「大工DIY」のブースで、女性が入念な説明をしながら、反対側を動かさないように抑えている大工さんが、「椅子にも踏み台にもなるし、物を置く台にもなります」と説明してくれました。1面が漢字の「米」に見え、その6面体になつ



岩木建設が建てたユーザー様邸のパネルを展示



新築やリフォームを検討中の人はこの機会に展示場内部を見学

ている。材料は分厚い合板で、これも現場の廃材だそうだ。女性に箱の用途を聞くと、「バーベキューの台にしようと思って」と笑顔になった。仕上げたらワンボックスカーに積んで持ち帰るそうだ。

イトノコで板からウサギを切り抜くコーナーには行列ができていた。参加者が板に描いたウサギの線に沿って切っていく手元を、大工さんがライトで照らしている。ウサギに4個の

車を付けければ、来年の干支が上がる。

飯金でツルを折る「板金やさん」、青森ヒバでフォトスタンドづくりが体験できる「建具やさん」、バイクみたいな音を響かせながらのチェーンソーアートの実演、子供たちが遊べる木のジャングルジム、射的……、保険や墓石の相談コーナーまである。

モデルハウス内の1階は、住宅建築に参考になるよう見学スペースとして開放。2階では、暮らしを彩る趣味の作品展が開催された。

陳列されたカラフルなカゴやバッグのクラフト作品が、実

はこれも廃材が利用されていると知って驚いた。材料が、ダン

ボール箱などを梱包するあのクラフトバンド(紙バンド)だという。作品集の本まで出版されるほど人気があるらしい。女性が、ここで買い求めたというバッグを腕にかけていた。クラフトバンドで作ったのだとは思えない出来栄だ。温かみがあるのは、廃材を生かした手づくりの味わいだろう。

入り口では、次々に訪れる参加者に社長と専務が封筒を手渡していた。中に粗品として入っていたタオルのノシ紙に、こう書かれてあった。

「木も大切です」

教室・作品展 ワークショップ



パステルアート



クラフト作品

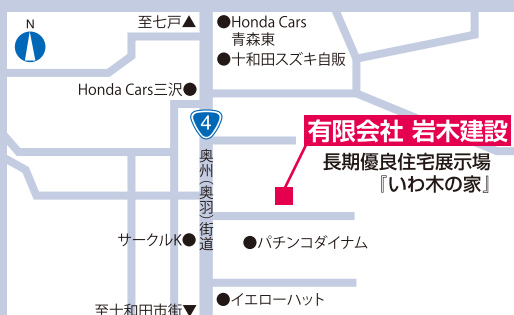


スタンドグラス

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp



有限会社 岩木建設

(有)岩木建設の住宅展示場『いわ木の家』を見学したのがきっかけで、自宅を建てたお客様は多い。そこに共通する「決め手」は「木のいい匂い」だ。建てて12年経つ今も「玄関に入ったときに木の匂いがした」と。今回ご紹介の、3年前の冬に見学に訪れた高屋様もそうだ。木の匂いの中でも、とくにヒバの清々しい香りが滲みるようにすっと入ってきた、という。その展示場で思わぬ出会いがあった。設計監理をしている社員の米田斐子さんは高屋様の小・中学時代の先輩であった。まさかここで会うなんて……。偶然じゃなく、引き合わせてくれたのは「縁」だ。



ユーザー訪問

高屋 様邸

DATA

十和田市東4番町

2021年4月竣工

■延べ床面積／約40坪(約132.23㎡)

■使用青森県産材／ヒバ(土台、洗面脱衣室、トイレ)、スギ(柱、梁、天井、格子)、クリ(下屋の柱)、ケヤキ(玄関上がり框)。

展示場の木の匂い



リビングの端に設けた和風空間

リビングの吹抜けの天井でゆっくりとシーリングファンが回転している。勤務時間が不規則というご主人に一番必要なのは、くつろぎと睡眠だ。帰宅し、ご主人の定位置というダイニングテーブルに腰かけると、目の前に吹抜けの空間が広がる。見上げる開放感がくつろぎをもたらす。

ご主人と岩木勝志社長と設計監理担当の米田斐子さんがダイニングテーブルに向かい合った。取材に先立ち、リビングの窓側に置かれてあった「雲梯」のようなものについて訊ねてみた。

「ご主人の話
そうですね、雲梯です。ぶら下がるのが子供の発育に良いとネットで見ただので、取り寄せたんですよ。……いや、出来たのを買ったんじゃないかと、関東の人が、こういう組み立てる手作りのキットを販売しているの知って、関東エリアならその人が運んでくれるそうなんです。そうなんです、青森ですけれど、郵送してもらいました。それを組み立





吹抜けの開放感にくっつき

てたんです。
岩木社長の話 高屋様、マメな方なんですよ。玄関前の庭の人工芝生も全部ご自分で敷いたんです。
 ——そういうお方は、家づくりにおいても **“ご主人主導”** だったでしょうか。
ご主人の話 (笑って頷きながら)

ら)妻を何社かの展示場に連れては行きましたけど、あとは私にお任せでしたね。
 —— **岩木建設と出会ったいきさつ** からお聞かせください。
ご主人の話 展示場を見学に行つたんです。国道4号沿いに看板が立っていて、その奥に展示場が建っているのは以前から

知っていました。実はそれ以前に他社の展示場を見てはいたんですけど、そのときに感じなかったものが、岩木建設の展示場にはあったんです。“木の匂い”です。玄関に入ったときの木の匂

開放感あふれる吹抜けのリビングの窓際にあるのはお子さんのために取り寄せたという雲梯

い。いいな、つて思いましたね。広いリビングが板張りで、太い柱が立っていて、周りの壁にも、天井にも木が張られています。2階へ上がる階段も分厚い板で、“木”の存在感がありましたね。特に香りが良かったのはヒバです。寝室にも、トイレにも、2階の洗面コーナーにもトイレにも張られていて、つい吸



リビングのダイニングテーブルはご主人の定位置



吹抜けの2階から見下ろしたリビング。右の窓際にあるのが「雲梯」で、左端が琉球畳を敷いた和風空間

い込んでいましたよ。ヒバつて、香りにも木肌にも清潔感がありますよね。もう絶対わが家の洗面にもトイレにもヒバを張ろうつて、気が早いんですけど、そのときに決めていました。

大工の助言に感謝

岩木社長の話 展示場を建ててからもう12年になりますが、初めて来られたお客様は皆さん「木の匂いがする」って言われますね。木は伐つても「生きています」と言われるけど、香りもまたそうなのですね。使っている木はヒバやスギやアカマツ、カラマツ、カバザクラなど全部青森の山で育った県産材です。

ご主人の話 展示場を見学していたときに、あ、岩木先輩、って声が出そうになりましたよ。まさかここで会うなんて思ってもいませんでした。小・中学時代の先輩で、結婚されて米田さんになったとはそのとき知りました。この出会いが大きかったですね。岩木建設に先輩がいる

としないとでは親近感がまるで違います。しかも先輩が設計監理を担当しているというのだから、もうそれで決まったようなものです。それ以上の安心感はありませんからね。

岩木社長の話 展示場を見学したいとご連絡いただいたときに、高屋さんてひよつとして……、と思つたんですよ。高屋様のご両親と私も小・中学の同窓生だったんです。

ご主人の話 家を建てる大工が元請なのか、下請なのか——。そこにもこだわりました。ハ



階段の上り口の両側に付ける予定だった手すりを片側だけにすることで、その分、広さが感じられる

ウスメーカーだとなんかいい大工は下請けを使っているようですが、私は最初から「直」の大工さんにしようと思っていまして。そのほうが安心感があるじゃないですか。岩木建設では社員大工だと知って、それも大きな決め手になりましたね。

——実際に住んでみると、「こうして良かった」とか、逆に「こうすれば良かった」ところが出てくるようですが、その点はいかがですか。



2階の子供部屋。右側の窓から1階のリビングが見える



吹き抜け

ご主人の話 住んで1年半になります。ですが、こうして良かったと思うのが「格子」です。玄関とダイニングの間に建てた格子。大工さんの助言で、縦に並んでいる板の向きを、ちよつと斜めにしたんです。板が真っ直ぐだと、玄関にお客さんが来たときにこつちが透けて見えるから、少し斜めに



香りがいいヒバが張られたトイレ

したほうがいいと。大正解でしたね。確かに板を斜めにした分、正面からは見えにくいですが、まだあります。階段の手摺りです。初めは階段の上り口の左右に手摺りが付くことになっていたんですが、片側だけのほうが広く感じられると、同じ大工さんがアドバイスしてくれたんです。住んでみたら、そのとおりでした。

——下請けであれば、元請け会社の指示どおりに建てるだけでしょうかね。

ご主人の話 快適さつて、出来上がった家の内容がどうのこのよりも、職人さんとも触れ合つてこそ得られるものだから、実感していますよ。

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp

